

第1学年国語科 シラバス（学習案内）

教科の目標

○中学校国語科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

○中学校1年生の国語科の目標

- ・ 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
- ・ 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにするようにする。
- ・ 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

本校ではこれらの目標を次の「評価の観点と方法」をもとに達成することを目指します。

評価の観点と方法

観点別評価の項目	評価の観点	評価の方法
感心・意欲・態度	日常生活にかかわる様々な言語活動や読書を通して、具体的に考えたりものの見方を広げようとしている。	・ 授業や、課題への取り組みの様子 ・ 発表 ・ 提出物 など
話すこと・聞くこと	目的や場面に応じ、構成を工夫して話したり、話し手の意図を考えながら聞き、考えをまとめることができる。	・ スピーチ ・ 授業時の話し合い活動等への取り組み ・ テスト など
書くこと	目的や意図に応じ、構成を考えて的確に書いたり、進んで文章を書いて考えをまとめたりすることができる。	・ 作文 ・ ノート下段の感想 ・ 天声人語 など
読むこと	様々な本や文章を読み、内容や要旨を的確にとらえ、読書を通して見方や考え方を広げることができる。	・ テスト(小説・説明文・詩 等) ・ 読書カード など
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	語句や文法、漢字など国語の特質に関する事項を理解したり、(古典の世界に触れたり) することができる。楷書と行書の基本的な書き方を理解し、字形や大きさ、配列に気をつけて書くことができる。	・ 書写 ・ テスト(漢字・文法・古典 等) など

第1学年国語科 学習計画

学期	月	学習内容（単元名）	学習のねらい	
一 学 期	4			
	5			
	6	野原はうたう（詩）	擬人化された詩を読んで表現の楽しさを感じる。	
		花曇りの向こう（小説）	登場人物の気持ちの変化を読み取る。	
		わかりやすく説明しよう（書く）	集めた情報を整理し構成を考えて書く。	
		ダイコンは大きな根？（説明）	段落の役割に着目しながら、文章の内容をとらえる。	
		7	ちょっと立ち止まって（説明）	筆者の考えをもとに、自分のものを広げる
			「好きなもの」を紹介しよう（話す聞く）	話の構成や順序を工夫し、自分の伝えたいことを整理する。
情報の集め方をしよう（書く）	情報を集める方法やまとめ方を学ぶ。			
二 学 期	8	詩の世界（詩）	表現の特徴をとらえ 情景を想像する。	
		言葉を集めよう（書く）	観点を立てて言葉を集め、表現する。	
		空を見上げて（随筆）	言葉にはどのような力があるのかを読み取り、考えを深める。	
		文法の扉（言語）	文・文節・単語といった言葉の単位を意識する。	
	9	光る地平線（読書）	様々な作品を読み、たくさんの言葉や人物たちと出会う。	
		星の花が降るころに（小説）	登場人物の心情を理解して自分の意見を持つ。	
		大人になれなかった弟たちに（物語）	厳しい時代に生きた人物の姿から自分のものの見方を見つめ直す。	
	10	シカの「落ち穂拾い」（記録）	筆者の考え方や図表の役割について自分の意見を持つ。	
		調べたことを報告しよう（書く）	課題に合わせて調べた内容を文章にまとめる。	
	11	いろは歌（古文）	歴史的仮名遣いに注意して古典の文章を読み、古典の世界に触れ、古典の文章に読み慣れる。	
		月に思う（古文）		
	12	蓬萊の玉の枝（古文）		
		今に生きる言葉（漢文・故事成語）		
三 学 期	1	幻の魚は生きていた（説明）	中心となる文に着目しながら、文章の要旨を捉える。	
		話題や方向を捉えて話し合おう（話す）	話題を的確に捉え、根拠を明確にして話し合う。	
		根拠を明確にして魅力を伝えよう（鑑賞文）	作品を鑑賞し、魅力が伝わるよう根拠を明確にし文章にまとめる。	
	2	竹（詩）	表現の特徴を捉え、リズムを楽しみながら音読する。	
		桜守三代（読書）	読書を通し様々な人の生き方に触れ、物の見方や考え方を広げる。	
		少年の日の思い出（小説）	登場人物の心情の変化を捉え、作品を読み深める。	
	3	印象深く思いを伝えよう（書く）	文章を読み返し、わかりやすい文章になっているか推敲する。	
		1年間の学びを振り返ろう（話す聞く書く）	発表の構成を工夫し、聞き手の反応に注意しながら話す。	
		ぼくがここに（詩）	作者の思いを想像しながら読み味わう。	

◎学習計画は、実態に応じて変更することもあります。